

| 番号 | 研究名 | 研究代表者 | 評価 |
|---|-------------------------------|-------------------|----|
| 28-3 | 複数のデータを活用した道路のストック効果の計測技術の再構築 | 広島大学 准教授 塚井 誠人 | B |
| <p><研究の概要> ※成果報告レポートより引用</p> <p>ETC2.0 データから得られる交通状態の質的指標を用いた新たな事故リスクの分析、携帯電話ビッグデータを用いた観光地のトラベルコスト評価、ならびに工業団地等の地価分析を実施して、道路のストック効果算出のための計測技術を再構築する。</p> <p><事後評価結果></p> <p>「交通状態の質的指標の算出と事故リスク分析」や「観光地のトラベルコスト評価」など、サブテーマそれぞれは一定の成果を得ている。しかし、中間評価時に指摘した点ではあるが、3つのサブテーマ間の関係性がやはり曖昧で統合されておらず、研究課題名にある『再構築』が達成できたとは言いきれない面もある。このことから、研究目的は概ね達成され、研究成果があったと評価する。</p> <p><参考意見></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成果報告レポートの7.2で「ストック効果計測手法の整理」が言及されており個別サブテーマの総合化に対する検討がなされた形にはなっているが、研究課題名にある『複数のデータを活用』することが7.2で説明された統計的因果推論にどのような役割を果たすのかの言及がない。データ活用とストック効果の計測との関連性をより明確にする必要がある。 2. 3つのサブテーマについては、それぞれ貴重な成果が得られていると評価する。しかしながら、「計測手法全体についての統一的な議論」のために追加されたという「テーマ4：統計手法による道路ストック効果の検証」については、「テーマの追加」という印象が強く、研究全体の統一的な議論には至っていないと考える。 3. 3つのサブテーマをまとめる形で追加テーマ（テーマ4：統計手法による道路ストック効果の検証）が位置づけられると良かった。 4. 研究課題名で『ストック効果の計測技術の再構築』を謳うのであれば、既存の計測技術を整理し、それに加えて、新たな計測技術を見出すとともに、それら全体の位置づけ等を整理することで「ストック効果計測技術」を全体的にとりまとめるという点を、より明確に示した方がわかりやすかった。 5. 『再構築』の意義と意味を明確にすると良い。 6. 3つのサブテーマから研究成果を得ているが、これらを実務の場面でどう利用するのが良いのか、利用できるのかがよくわからない。事例研究の結果は得ているが、実務で利用する手筈を用意できると良かった。 | | | |

※本事後評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第37回新道路技術会議において審議したものである。